白神山地ふじさと ガイド

Explore Fujisato—1

ここは森 好きが育つ場所

【岳岱】【田苗代湿原】

Tunashiro-Shitsugen

Dakodai

体力度 1（公園散策レベル） 難易度 専天靴スニーカーでOK

ビギナーにおすすめ。岳岱自然観察教育林と田苗代湿原は近くにあり、車で約10分。岳岱と田苗代は、白神山地をかたちづくる要素がコンパクトに詰まったフィールド。

“Return to the stillness.”

World Heritage Site Shirakami Sanchi Fujisato, Akita, Japan

Q.1 「岳岱自然観察教育林」ってどう読むの？

「岳岱」は「だけだい」と読みます。岳岱自然観察教育林は、藤里町の中心地から車で約1時間、普段着にスニーカーで行けるのが魅力です。約12ha（東京ドーム約2・5個分）の台地に広がるブナ林には遊歩道があり、これを進みながら世界自然遺産・白神山地を感じることができます。大量に水を蓄える役割を持つ腐葉土や、長い時間をかけてこの姿にたどり着き、これ以上別の林に変化していかない“森のゴール”となっているブナ林を散策することができます。ぐるっと1周して90分間。古き森の優しさに心癒かれるはずです。

本格的な装備なしで本物の白神を知ることができる貴重な場所。

1992年に「自然観察教育林」となったのは、ブナ林になるまでの成長過程や森と人との歴史的な関わりを学べるからです。一見すると“ものの言わぬ自然”ではありますが、実は様々に物語っていることがあります。終戦から70年経った現在の森の姿は、戦後にブナが伐採されスギが植林されたエリアや、伐採後に再びブナを植えたエリア、さらには地元の人々の働きかけでそもそも伐採を逃れた原生的なエリアなど、一口に森といっても、それぞれの歴史を持っています。

ガイドの話に耳を傾けながら、自然と人の長い付き合いの蓄積が眼前にあることが感じられる、そんな特別な時間を過ごすことができます。

Q.2 ブナの大木を見たいです

特に大きな木は、2本あります。岳岱自然観察教育林のシンボル、岳岱大ブナ、岳岱の入り口付近の「ものけブナ」（推定樹齢330年）、入口からバリアフリー歩道を右に行き見えるブナ（推定樹齢300年）です。

ガイドの斎藤栄作美さんによると、長生きする木には堅いコブがあり、縦に筋が入っていることが多いのだとか。

ものけブナ。このエリアでは、400年ブナに次ぐ老木。岳岱入口の駐車場に車を停めて、町道を歩いてすぐのところにある。

Q.3 ブナの木は何年生きるの？

白神山地のシンボルツリー。樹高は31.6m、幹周401cm。威圧的な感じがなく優しい雰囲気を持っているのも白神らしいところ。

ブナの寿命は250年前後。岳岱の入口から続く2次林の中を150mほど進むと、「岳岱大ブナ」と呼ばれる巨木があります。風格ある枝ぶりも印象的で、母樹の存在感を感じることができます。

岳岱の森は強い風が当たりづらく、良い水が流れています。周囲に羽尾する木がなかったなどの好条件が重なり巨樹へと育ったと考えられています。幹にもコブも見られ、樹齢は300年以上と想定されています。

Q.4 あのブナの木、石から生えているんだけど!?

巨岩があることで安定がよくなり、成長しやすいという説も。

岳岱自然観察教育林には、大きな岩石が至るところにあります。これは、かつて起きたとされる藤里駒ヶ岳の東側斜面の崩落によるものと考えられています。

この巨岩の上で発芽して根付いた椎樹が長い歳月をかけて大きくなり、根が地面に届いて巨岩を抱き込むようになったそう。日本全国他のブナ林では見られない光景です。ブナの生命力、歴史の重なりを感じます。

Q.5 岳岱の森は自然のままなの？

岳岱の林は3つに分かれていて、そこからは森と人の関わりの変遷が見えてきます。

入口付近は、終戦間際に択伐された区域です。今では、その伐採木の萌芽などから再生したブナ林が育つ二次林となっています。少し歩くと、スギの人工林が。戦後、燃料とするためにブナ林をすべて伐採して、成育の早い針葉樹・スギを植えた区域です。さらに奥まで歩くと、原生的なブナの一次林が広がっています。区域ごとに違う、森の空気を感じてください。

二次林

人が択伐したり、自然災害で破壊されたりした後、自然の力によって再生された森林。

人工林

皆伐し植樹した、主に単一樹種で構成される針葉樹林。岳岱のスギはこの土地に適さず成長が遅い。

一次林

人が伐採などを行ったことはなく、自然の力で形成された手付かずの森林。

「田苗代湿原」、これも読み方が……？ Q.15

「たなしろしつげん」と読みます。岳岱からさらに車で約10分、藤里駒ヶ岳の黒石沢登山口の駐車場に停車して、旧道方面に向かって原生的な森を10分ほど歩くと、湿原に到着します。

藤里駒ヶ岳は古くから信仰されてきた山でした。この湿原は神様の田であったといういわれがあることから、「田苗代」と呼ばれたそうです。散策できる湿原は3つあり、合わせると約19ha（東京ドーム約4個分）の広さにもなります。

季節の移ろいとともに様々な花が咲き誇り、訪れる者の目を楽しませてくれます。5月から6月にかけて牛乳瓶ほどの大きな実をつけるミズバショウや、6月下旬から7月にかけて黄色い花を咲かせるニッコウキスゲなどが湿原一面を覆うさまは壮観です。また、自ら熱を発して雪を溶かして顔を出すザゼンソウ、小さい虫を食べるモウセンゴケなど興味深い生態の植物も。小さな植物をルーペで見てみると、自然の神秘に驚くはずです。

また、第2湿原の待避所から見上げる藤里駒ヶ岳の森も見応えがあります。特に9、10月頃になると、ブナの紅葉ならぬ"黄"葉で全山が黄色く輝く瞬間があります。息を呑むような美しさです。